



にほんまつ

平成27年5月1日

No. 2

命を守る学習① 交通安全教室

5月に入りました・・・
桜新年度のこの時期、命を守るが全校行事で行われました。楽しい遠足・山学習にも行ってきました。新米1年生の学校生活も板についてきました。



喬木村駐在所の井川所長ご夫妻を講師にお迎えして、正しい自転車の乗り方(高学年)と交通ルールを確認しながらの歩行訓練(低学年)を行いました。交通ルールを守り自分で安全確認をして自分の命を守らなくては行けない、という気持ちを改めて持つことができました。

命を守る学習② 避難訓練

16日(木)は、避難訓練も行いました。新しい教室から迅速に安全に避難できることを目的とした訓練。真剣に取り組む姿が見られました。14日午後は、集団下校訓練も行い、職員が引率して下校しました。



万が一の時、落ち着いた判断と行動で、自分の命を守れるよう、日頃から意識していきましょう。

明日からゴールデンウィーク



交通事故・火遊び・お金の無駄遣い... この時期は 危険がいっぱいです

暖かくなると気候もゆるみ、気持ちが解放されてくると、行動が活発になったり気持ちが大きくなったりします。そして、生活の中に様々な危険が忍び寄ってきます。一年のうちでも、特に事故などが多くなる時期です。

■飛び出しは絶対にしない。 ■自転車のきまりを必ず守る。 ■人の迷惑になるような行動をしない。など、お家でも子どもさんに、身のまわりの危険を避ける行動について指導して下さい。

【登下校でも】交通安全街頭指導の皆さんから、「大型車が通るとき、すれ違いも厳しく、車がグリーンベルトまで入ってくる。」「大型車でなくても、乗用車がスピードを出して走り、こわい。」などの声が聞かれました。ご家庭でも、〇車を見る。〇車の通る道は遊びながら歩かない。の2点をご指導下さい。

4.23 校長講話より 「あいさつは、だれにも平等にしよう！」

今、テレビで活躍している林修（はやし おさむ）先生は、予備校の講師で「いつやるか？いまでしょ！」のキャッチフレーズが流行語になった方です。その林先生が、東京大学の学生だったときの出来事を本に書かれています。そのことを紹介します。（以下実際の表現は子ども向けに変えてあります。）

学生のぼくより ていねいにあいさつを返してくれた東大教授

大学時代、授業前にトイレに行こうとしたら、清掃中の札がかかっていました。そこで他のトイレに行こうとしたんですが、後ろから来たのがこれから始まる授業の教授でした。ぼくはあわてて頭を下げました。すると、教授はぼくと同じくらい、いや、ぼくよりも深々と頭を下げられたのです。それだけではなく、ちょうど出てきたおそうじのおばちゃんに対しても、深々と頭を下げられたうえで、「おつかれさまです」と、あいさつまでされたのです。

「清掃中」の札ははずされ中に入りました。まあ男の人ならわかるでしょうが、お互いが正面を向きながら、目を合わせないで話をすることがあります。その時ぼくは教授に「先生ってほんとうに礼儀正しいんですね」と、今考えればちょっと生意気なことを言っちゃたんです。すると先生は、「ああいう方が、自分の仕事をしっかりしてくださるおかげで、こうやって気持ちよく用をたせるんですから、ありがたいことです」と、僕のほうを見ないでおっしゃったんです。

あいさつの本当の意味とは

その後授業がはじまったんですが、ぼくはずっと「あいさつ」の意味について考えていました。そして、そのとき初めて、あいさつの本当の意味がわかったような気がしたんです。あいさつをぼくが誰にするかといえば、もちろん声をかけるその相手です。しかし、それだけでなく、ぼくが誰かにあいさつしているのを別の人が見ることでもあるのです。

僕にとって一番のおどろきは、ぼくと、おそうじのおばちゃんに対してまったく同じおじぎを先生がされたことです。ちなみにその先生は日本の法曹界の大家で、東大法学部の教授の中でもとくに有名な方でした。

だれに対しても同じように深く頭を下げる

「元気に、大きな声であいさつしましょう」と子どものころに教わりますよね。もちろんそれはまちがっていません。しかし、一番大切なことが抜けています。それは、「だれに対しても同じように深く頭を下げる」ということです。

あいさつの本当の意味を知らない人たち

あなたのまわりにこういう人はいませんか？会社などで、えらい人が来ると急にペコペコするくせに、おそうじのおばちゃんがいさつしているときには、いばった態度をとったり、無視してあいさつをしないような人。また、夜の街の、きれいなおネエさんが出てくるような店で、そういうおネエさんに対しては、気持ち悪いほど調子のいい声を出すくせに、お酒や食べ物をはこんでくれるボーイさん（男性）に対してはいばりくさった態度で接する人。

こういう人はあいさつの本当の意味を知らない人です。実は、そういうところを「おネエさん」たちはちゃーんと見ているんですよ。それが何を意味するのか……、それは書かなくてもおわかりですよ（中略）

同じようなあいさつを誰に対してもすること

偉い人には当然頭を深々と下げなければなりません。会社で働く人なら特にそうでしょう。この姿を損得だけ考えて生きているイヤらしい人だと思われぬようにするには、ただ一つ「同じようなあいさつを誰に対してもする」ことです。

だれにでも平等なあいさつができる人は印象もよくなる

美しいあいさつをする姿は、実に美しいものです。あいさつされた人も気分がよくなり、お互いに仲よくなれます。しかもそういう公平な姿を必ず見ている人がいるんです。ああ、この人は地位の上下にかかわらず礼儀正しい人なんだ、という印象がマックスになることなどあるのでしょうか？おそうじのおばちゃんだって、嫌な思いはしないでしょ。

頭を下げることには 全くお金がかからない

さらに、少しいやらしい言い方をしますと、「頭を下げることにはまったくお金がかからない」のです。おそうじのおばちゃんに頭を下げて何になるんだよ、そういう人がいると思います。でも、お金はかからない、タダなんです。1円も使うことなく相手を気づかい、心を通わせることができます。さらに、自分に対するまわりの人の印象をよくすることもできる——こんないいことは、この世の中にめったにありません。

あいさつの大切さがわかっている人は実行している

もう言いたいことはわかりますよね。あいさつを大きな声ではきはきすることは大切です。しかしもっと重要なことは、だれに対しても同じようにていねいにあいさつをすることです。そういうあいさつが自然にできるようになったとき、あなたに対する世間の評価は少しかわっているはずですよ。だから、そのことがわかっている人たちは、ていねいなあいさつを実行しているんです。（中略）

今、児童会では、登校時にあいさつ運動をしてくれています。大きな声で、とてもさわやかです。ぜひ、みんなで気持ちよいあいさつをしましょう。その時大切なことがあります。あいさつは、だれに対しても同じようにしましょう。

その日の、6年生の日記から

「あいさつは、すごい言葉」

私は、今日の校長講話で思ったことがあります。1つ目はあいさつの意味です。あいさつはただ言うだけです。しかし10文字にも満たないあいさつだけでもうれしくなったり、気持ちがよくなったりできます。そして、あいさつで人の印象が変わったりもすると校長先生はおっしゃっていました。あいさつは、いろんな意味ですごい言葉だと思います。

「本当のあいさつができる人が、一番えらい人だと思う」

2つ目は「だれに対しても平等なあいさつをする人」についてです。「ふだん、こんな人はいませんか？」という校長先生の質問のあと、例えば…で出た人は、上の人にはごまをするような人で、下の人にはいばる人でした。私は「いる、いる」と思いました。しかし、よく考えると、そのような人の方が世の中にはたくさんいると思います。だからこそ、だれに対しても平等にあいさつする人は、本当のあいさつができる人だと思います。本当のあいさつができる人は、どんな地位などにもかんけいなく、一番えらい人だと私は思います。なので、私も本当のあいさつができるような人になりたいです。その第一歩のためには、あすの朝のあいさつは、とてもよいあいさつをしたいと思っています。